

印西大師 第29番 師戸・長円寺

1 名称 (No.029)〔手引鏡：長円寺〕〔資料館：長円寺〕〔行程表：長円寺〕

2 場所 印西市師戸932 長円寺

師戸・広福寺から道程約770m

GPS座標 35.75554215459348, 140.1805465162602

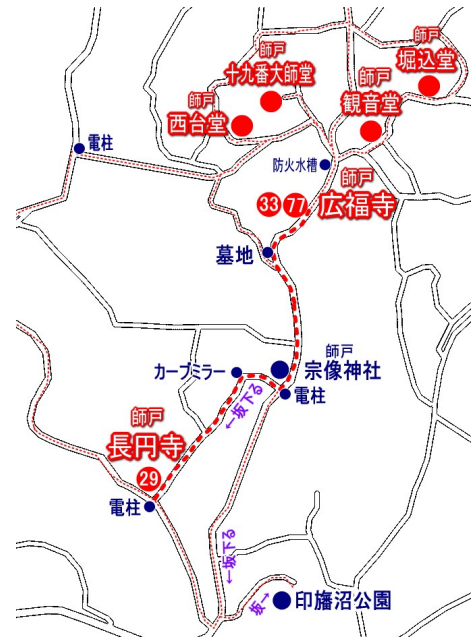
3 由緒 真言宗豊山派 奈良山 長円寺

師戸村字奈良戸にあり 真言宗にして実蔵院末なり 阿弥陀如来を本尊とす 宗祖興教大師法孫開基 幾世伝来之義 元禄八乙亥年十一月中焼失に付縁起書等類悉皆不詳 中興開山法印円浄 正徳五乙未年十月二日本堂長六間横五間創立 明治十二己卯年四月二十八日現存之本堂堂宇大破 明治十二年七月九日更に仮堂再築 檀徒37人（印旛郡誌）

4 御堂 大師堂の中に丸彫りの御大師様が1体あり。

5 境内 本堂のほか大師堂が2堂や観音様がある。銀杏の黄葉がきれいだ。山門前で一休みするのも良い。

6 写真 (2019.08、2020.11、2022.09、2023.03撮影)



大師堂



御大師様



大師堂



本堂



御大師様



山門と本堂



観音堂



左から観音堂(左)、助右衛門大師、第29番



御詠歌

7 情報

(1) 印西大師 第29番 長圓寺 御詠歌（泉倉寺本による）

国を分け宝を積(つみ)て建つ寺の 末の世までの利益残せり

四国八十八ヶ所 第29番 真言宗智山派 摩尼山(まにざん) 宝蔵院 国分寺(こくぶんじ) 写し

志 圖 寺 案 内

祇 16.8
補 祇 26.1

○長円寺の由来と記念碑

「師村余良戸にあり、真言宗にて実威院永なり。阿弥陀如来を本尊とす。宗祖興教大師法孫南基後世伝承の義。元禄八乙亥年十一月中境矢に付縁起書類悉皆不詳。中興南山法印内浄正徳五乙未年十月二日本堂概創立。明治十二己卯年四月二十八日現存の本堂堂宇大破に付地方庁へ出頭の上明治十二年七月更に假堂再築。境内二百九十一坪官有地第四種あり。住取は山口水降兼務にして檀徒三十七人を有し。管轄庁まで五里十四町七間あり。」

寺社明細帳より

現在までの長円寺は、百余年仮堂のままで経たが、平成四年、檀家衆議一決し、新築を図る。同五年十一月起工し、翌六年十一月二十三日待望の落慶式典を挙げる。

檀々の困難を克服し、三年にわたる浄財の繰出、無からの大事業を成し遂げた檀家四十四人の喜びは一入であった。更に、奈良戸已民の協

力、他所に行つた親戚縁者のご芳志と、ふ名の起人による本尊の修復、佛具一式の整備によりここに、完成を祝ひ、子々孫々隆盛を祈りつゝ、記念碑の建立に至つた。

記念碑題字は、八街市在住の葛橋岳心（葛橋正八郎）先生によるものである。

※本堂新築に同わつ事項は記念碑裏面

備考	元禄八年	西暦一六九五
	正徳五年	一七一五
	明治十二年	一八七九
	平成六年	一九九四

○庫裏建立

本堂新築から時を経ずして平成十一年八月に庫裏再建の話が持ち上がり、総会にかけること二回、建設委員会十一回、設計変更三回、檀家の奉仕活動、勤労員延一一六名、その他有志の奉仕活動。

工事費一、一五〇万円、三十三坪、運営費一五〇万円、の予算で十二年五月十七日上棟式を挙行。本堂に見合う庫裏の建築に着手。寺の資金六〇〇万、新檀家七名を加え五四二万円、元寺からの応援をうけ、十三年五月二十八日無事落成式を迎え、ことか出来た。※江戸時代の施設等については長円寺傳りより参考。

○十一面觀音 本堂右側

長円寺新築に伴い物置を移動した。その際、長老に尋ねてもわからぬのか宮殿に入つていた様
けた十一面觀音の立像であつた。本尊改修に就いて
總督像の修復も実施する。仏具師のみるところ
宮殿も立派で立像も時代物へ鎌倉時代? だと
のことであつた。たまたま整理中に棟札を発見し
今まで不明だつた一部が解明できた。以下棟札
に記されたものを掲げる。

表

奉建立宮殿壹宇本尊十一面觀音
文化元甲子星三月吉祥日
下総国印旛郡師戸村余良山長円寺留主居
閑暇尊印白井台町大澤山実蔵院現住
快善 慧壽

裏

×印不明

地頭 堀田大蔵大輔殿
領主 当村

世結人 快善
出山 × × ×
渡邊 勘右工内
同 長右所

セ松井久左工門
已根本蔵左工門
名主 小那木清左工門
組長 小那木吉左工門
小那木吉左工門
× × ×
× × ×

→ 菊池治郎左工門
松井四郎左工門
→ 八右工門
× × ×
× × ×
→ 宏福寺現住果嶺

